令和４年度後学期　授業評価アンケート結果のまとめ

1. アンケート実施方法
   (ア)評価対象は全授業。
   (イ)Web アンケート方式で、授業の最終回に学生に対して回答を要請する。
2. アンケートの内容
   (ア)設問１：授業方法について６項目、設問２：授業内容について４項目。これらの回答は三択（はい、どちらともいえない、いいえ）で、それぞれ 10：5：0 の 10 点満点に換算して平均点を求め、それらの合計を総合評価点（100 点満点）とする。
   (イ)設問３:授業で身に付いた力。DP に示された７つの指標に対応する項目に対して、当てはまると思うものを選択する。
   (ウ)設問４：履修の動機および 1 回の授業あたりの予習・復習に費やする時間について、それぞれ選択肢から当てはまるものを選び回答する。
3. 解析結果：履修登録人数 15 名以上、回答数 10 名以上のもののみを対象とした。回答率は履修登録数を分母として 61.0%と、前学期に比べて 8 ポイント余り、昨年度後学期と比べても４ポイント余り低下した。
   (ア)図１には、設問１・設問２の項目ごとの平均点分布を、対象授業すべてに対してまとめて示した。全体の傾向および平均点は、前学期同様これまでの年度・学期の結果と大きく変わっていない。ただ、問 1-6「学生同士が意見交換したり質問などを共有したりする機会や場がありますか」については、平均点が 2021 年度の 7.89 から 8.10 に上がっており、前学期に続き改善が進んだものと考えられる。
   (イ)図２には、対象科目すべての総合評価点の分布を示した。こちらも、全体的な様子は昨年度の結果からの変化はほとんど見られない。
   (ウ)図３には、設問４で回答された授業１回あたりの学修時間の分布を示した。こちらも昨年度と比べてほとんど違いが認められない。学修状況のより正確な把握に関しては、アンケートの設問変更を含め何らかの対応が必要かもしれない。
   (エ)図 4 には、身に付いた力 7 項目の選択率分布を示した。こちらでは、昨年度と比較したときに進める力と深める力の選択率が全体に低い方にシフトしている様子が認められ、前学期と同様の傾向となった。その原因として現時点で特に思い当たるものが無いため、来年度の結果も確認して、一時的な変動で無いようであれば対策を検討しなければならないと考えている。また、「科目に関わる知識・技術」の選択率については、前学期よりわずかに選択率が高くなったものの大きな違いが見られず、引き続き各教員に状況を周知して改善を図りたい。

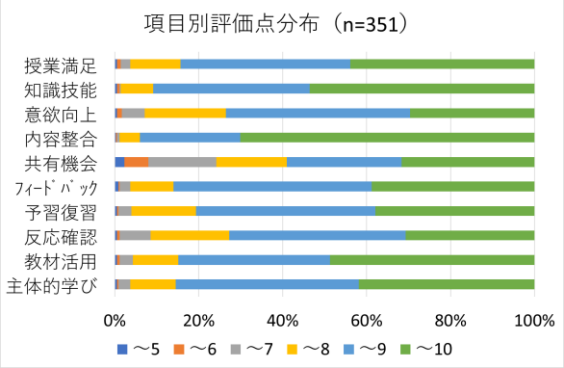

図１　項目別評価点の分布

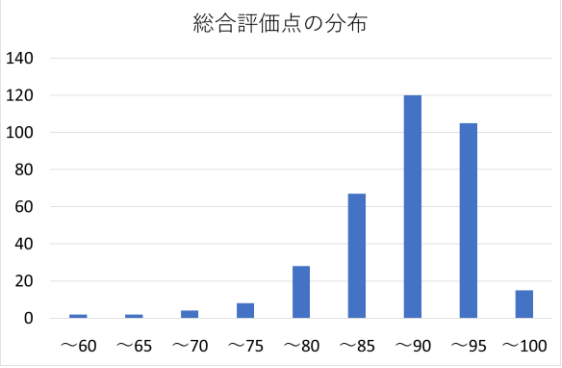

図２　総合評価点の分布

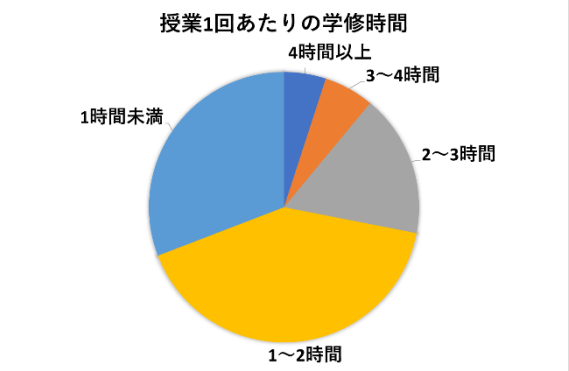

図３　授業１回あたりの学修時間

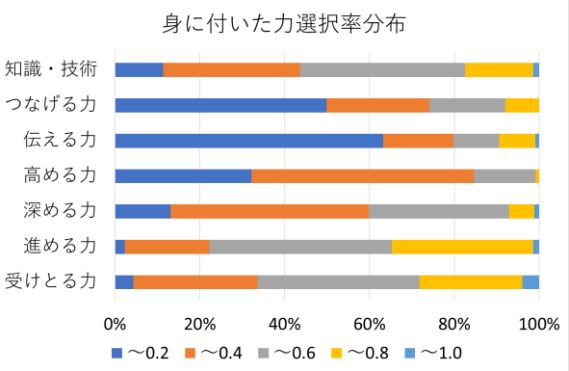

図４　授業で身に付いた力７項目の選択率